

» Vol.04

環境配慮設計の推進

前回に続いて、日建連の建築分野における低炭素・循環型社会へ向けての活動をとりあげます。今月号では、会員会社におけるCO₂排出削減やCASBEEの活用状況・評価実績をご紹介します。



低炭素・循環型社会の構築に貢献

日本全体のCO₂排出量のうち建築関連は約三分の一を占め、その大部分は建物の運用段階のものであります。また、省エネ法では省エネルギー計画書の届出が義務付けられ、さらにはCASBEE（建築環境総合性能評価システム）の提出を義務付けている自治体も増えていきます。

そのため、建築関係者には、計画設計時にライフサイクルを視野に入れた省エネルギーと省CO₂に考慮した建物を構築することが求められています。

省エネ計画書CASBEE対応状況

日建連会員会社は、工事額の約三分の一を設計施工一括方式で受注しており、企画・設計から建物の構築に携わっているため、環境配慮設計の推進は重要な課題であると考えています。

日建連では、その取り組みを定量的に把握し、CO₂排出量を削減することを目的として、「省エネルギー計画書およびCASBEE対応状況調査」を行っています。

本調査では、新築時に提出した省エネルギー計画書を基に、省エネ法の『エネルギーの使用の合理化に関する建築主の判断基準（性能基準値）』以上の性能を作り込んだ場合に、その分の省エネルギー量を設計の貢献分と考えています。さらに、同建物でCASBEE評価を行った

場合はその数値も調査しています。

会員会社の取り組み

調査対象二三社が二〇一〇年度に提出した省エネ計画書（四八五物件）及びCASBEE評価の結果をみると、環境性能の高い設計をしていることが分かります。

- ・ 二三社中二社が、社内基準を設けて自主的にCASBEE評価を実施しています。
- ・ 省エネ法の「建築主の判断基準」を丁度満足する建物と比較すると省エネ率、CO₂削減率の平均値は三三%となり、CO₂削減量（運用段階）は、年間約二万トと推定できます。
- ・ CASBEE評価については、九四%がB+ランク以上であり、Aランクは全体の四八%、最高のSランクは九%強を占めています。

